

環境を守り災害から地域を守る

—YOKOHAMA 千年の杜プロジェクト

横浜ゴム(株) CSR 本部

CSR・環境推進室担当 篠田 茂

当社は製造業として、温室効果ガス、産業廃棄物、溶剤などの削減に努めてきた。これらの環境負荷の極小化は重要だが、生産をしている限りゼロにはならない。マイナスを減らす活動の一方で、環境にプラスの活動をする取り組みとして、工場の周囲に杜を創生し、工場の存在自体が環境に貢献するための活動を行っている。

全世界で 50 万本の植樹を目指す

「YOKOHAMA 千年の杜植樹活動」は、創業 100 周年にあたる 2017 年までに国内外の全生産拠点到約 50 万本の植樹をしようという計画で、2007 年 11 月 11 日の平塚製造所での 3500 名による 2 万 7000 本の植樹祭を皮切りに活動をスタートした。

植樹は植物生態学者・宮脇昭氏（横浜国立大学名誉教授）の指導による「潜在自然植生」に基づいた「宮脇方式」で、その土地に最も適した樹木

の苗木を 1m² 当り 3～5 本混植・密植する。森林再生には 100 年以上かかると言われているが、宮脇方式は 10～20 年という短期間で杜が再生できることで世界的に有名であり、すでに世界で 4000 万本以上が植樹されている。

この方式は CO₂ の吸収固定による温暖化防止のみならず、地震、台風や火災から守る環境防災保全林としても役立つ。工場の万一の災害に対し被害を最小限にすると同時に、周囲への拡大も防止できる。シイ・タブ・カシ類の常緑広葉樹は根が深い深根性・直根性の樹木であり、地上が 30m あれば根も同じ長さがあり、地震や台風でもなかなか倒れない。

また、針葉樹の松やヒノキは燃えやすいが、常緑広葉樹は水分が多いため火災にも強い。阪神大震災でもカシの林のおかげでマンションに延焼しなかったとか、関東大震災でも常緑広葉樹の林に囲まれた場所にいた人が助かったという実例もある。秋田県酒田市ではタブノキで大火災を防げたことから、「タブノキ 1 本消防車 1 台」という掛け声で植樹を進めているほどだ。常緑広葉樹のタブノキは水分がすごく多く、火事になると葉に含まれている水分を放出するため延焼を防ぐのである。

基盤整備土づくり（平塚）



2年でここまで成長（三島）

地域と一体で“自前の杜づくり”

活動の柱は 2 つで、第 1 は「自前の杜づくり」。苗作りに必要なドングリ採取から、ポット苗（ポットに入れた 20～30cm 位の幼木）作りや植樹場所の土作り、わら・竹串などの準備までの全てを、従業員のボランティア活動で実施している。油圧ショベルの免許まで取り、狭いところはスコップ



従業員家族総出で植樹（フィリピン）



地域の皆さんと一緒に植樹（タイ）

で土を掘るなど、まさに自前の活動となっている。

第2は「地域と一体になった活動」である。植樹祭には、従業員と家族、近隣住民の皆さん、自治体、小学校などの子どもたちが参加する。植樹に参加することで、地域住民も従業員も杜を育て創生する楽しさを感じ、癒やされると言う。

海外でも同様の活動を2008年8月のフィリピンを皮切りにスタートした。その後、中国（杭州）、タイ、アメリカと続き、各工場で第1期の植樹祭が行われた。海外においても宮脇先生の指導を受け、その土地本来の潜在自然植生を事前に調査し樹種を決定している。植樹場所や実施工場を順次拡大し、今年はタイのテストコース、建設中のロシア新工場、中国の蘇州工場が加わり、ほぼ全拠点が出揃うことになる。

育った苗は自社内で植樹するのみならず、各地域の行政や福祉団体へも寄贈している。例えば平塚製造所では、秦野市の植樹祭に1万5千本、社会福祉団体進和学園に5300本のポット苗を寄贈するなど、全国の各地域で苗を提供している。

苗の提供は海外でも実施。特にタイやフィリピンが熱心で昨年は両工場合わせて約1万本の苗を提供、海外での苗の提供は累計で7万6639本になっ

た。海外では単なる苗の提供だけではなく、地元の学校や公共施設などへ出向いて、植樹方法を指導するというボランティア活動を実施している。

2010年度からは、5月22日の「国際生物多様性の日」（国際連合が制定）に全世界的に展開されている「グリーンウェーブ活動」にも全世界の工場が参加し、植樹活動をしている。

津波被害を防ぐ“緑の防潮堤”

地震・津波対策として「緑の防潮堤」という話がある。東日本大震災では津波で松林が流され、流木が家屋を倒す2次災害を引き起こした。そこで、常緑広葉樹の防潮堤をつくれば波が来たときの破碎効果で津波の勢いを弱めるし、深根性で倒れにくいことから2次災害も防げるというものだ。津波が引く時も流された人がここで食い止められる。実際の活動展開は数年後になるが、今後の活動としてこういった「緑の防潮堤づくり」に新たに取り組むことも考えている。

杜の創生は、地球温暖化防止はもとより生態系の保護など生物多様性の面でも重要であり、地域の環境防災保全など多様な効果を持っている。われわれの身近ですぐできる環境貢献活動として、今後も継続して取り組んでいきたい。

2012年1月現在、国内全7拠点に14万本、海外9拠点に約9万本、合計約23万本を植樹した。目標の2017年50万本達成に向け、活動を加速しようと考えている。



中国・山東工場の苗場



タイ工場の苗場

◆横浜ゴムのCSR活動

<http://www.yrc.co.jp/csr/index.html>